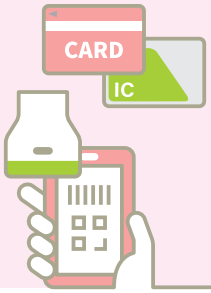
多様化・重層化する
キャッシュレス決済
第8回



コード決済(1)
―コード決済とは―

山本 正行　Yamamoto Masayuki　山本国際コンサルタンツ代表
明治学院大学・関東学院大学講師、決済サービス事業の企画、戦略立案を専門とするコンサルタント。消費生活相談員を対象とした研修も実施。講演、執筆多数

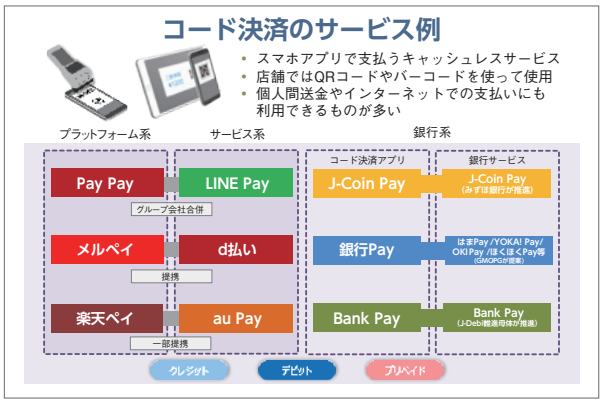
今回はコード決済について解説します。

コード決済とは

スマホアプリで支払う「スマホ決済」の1つの体系で、利用時にスマホアプリを立ち上げ、QRコードやバーコードで認証して支払う決済手段をいいます。店舗などでの支払いだけでなく、送金に対応するサービスもあります。日本では2014年12月にサービスを開始したLINE Payなどが先駆けで、その後2018年にPayPay、d払いなどが始まり、それに続いてさまざまな銘柄(サービス)が現れ多様化しています(図1)。2019年には政府によるキャッシュレス決済推進政策の1つであるポイント還元事業や、PayPay運営事業者などによる大規模なキャッシュバックキャンペーンによって利用者を増やしました。

一般社団法人キャッシュレス推進協議会の「コード決済利用動向調査」によれば、2021年の主要なコード決済サービスの利用額は7兆3487億円(平均単価は1,501円)で、これは電子マネーの年間利用額5兆9696億円(日本銀行「決済動向」)を超えています。コード決済が本格化した2018年からわずか数年で、クレジットカードの利用総額81兆173億円(一般社団法人日本クレジット協会「日本のクレジット統計2021年版」)に次いで2番目に利用総額の大きいキャッシュレス決済サービスにまで成長しました*。

図1　代表的なコード決済サービス



※図はすべて筆者作成

コード決済の種類

コード決済は多様化が進んでいます。コード決済を提供する運営会社の属性や、利用範囲などによっていくつかの類型に整理されます。

①汎用型1(銀行以外によるもの)

利用可能な場所を特定の店舗やチェーン店などに限定せず、より広範囲での利用を前提としたコード決済で、PayPay、d払い、au Pay、楽天ペイ、メルペイなどがこれに当たります。一部のコード決済サービスは、日本ばかりでなく海外への進出も始めています。

②汎用型2(銀行によるもの)

広範囲で利用できることを前提とした点は汎用型1と同じですが、銀行口座からの支払い専用になっている点が特徴です。J-Coin Pay(みずほ銀行等が提供)、Bank Pay(日本電子決済

* なお、統計上、コード決済の利用額は、残高が前払式支払手段(電子マネー)として、クレジットカード紐(ひも)付け決済と、残高にクレジットカードでチャージした額がクレジット利用額にも算入されるので、これらの数値には重複もある

図2 コード決済の主な用途

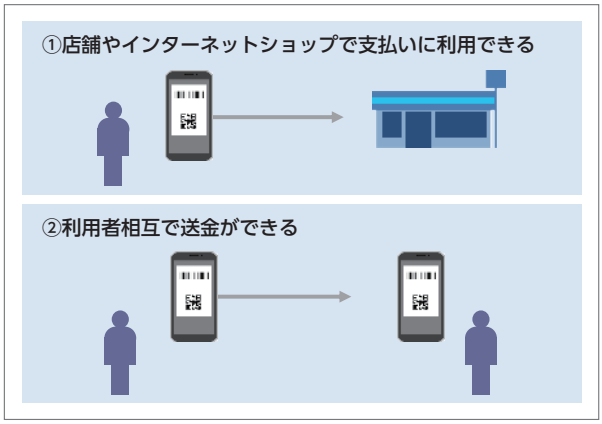
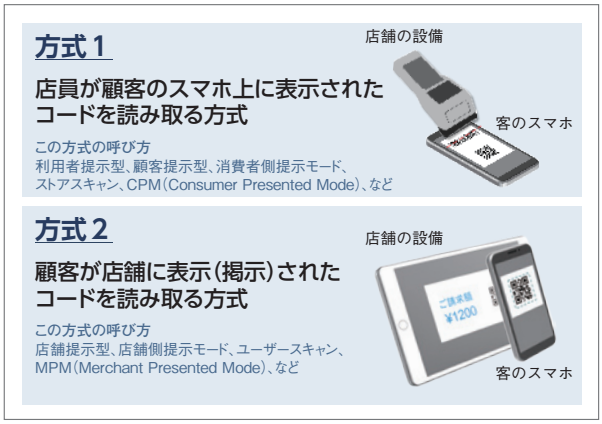


図3 コード決済の店舗での支払い方法



推進機構が運営)、銀行個別の銘柄(はまPay、YOKA!Pay、OKI Pay等)などが存在します。

③ハウス型

利用範囲を特定の店舗などに限定したコード決済で、地方自治体、専門店、百貨店、ショッピングセンター等が提供する事例が増えています。最近は、流通業などが利用者に発行していたプリペイドカードやポイントカードを、スマホのコード決済アプリに統合していく事例も増えています。

コード決済の基本機能

コード決済には、店舗やネットショップなどでの支払い、相手方への残高の送金の2つの機能があります(図2)。

①店舗等での支払い

店舗での支払いの際には、アプリの画面に表示した支払い用のQRコードやバーコードを店員に見せ、機械で読み取って支払う方式(方式1)と、店舗に表示される専用のQRコードをスマホで読み取って支払う方式(方式2)があります(図3)。例えばコンビニなどでは、レジの金額がコード決済の支払処理に自動的に反映されるのですが、利用金額が店舗の設備の都合で連携できず、支払いの際に利用者自ら金額をアプリに打ち込む方式を取る店舗もあります。打ち込んだ金額を店員が確認した後で支払処理が完了しますが、金額を間違えないよう注意が必要です。

ネットショップの場合ですが、パソコンのブラウザで利用する場合と、コード決済のアプリが入った同じスマホで利用する場合とで異なります。パソコンの場合は、購入時にパソコンの支払画面にQRコードが表示され、スマホでそれを読み取って支払う方式が一般的です。スマホでネットショッピングを行う場合は、同じスマホでQRコードを読み取ることができないため、支払い時にはネットショップの画面から自動的にコード決済アプリが立ち上がる方式や、携帯電話番号、コード決済のアカウントのID、パスワードなどで認証して支払う方式などがあります。

②送金

送金機能は、事前にチャージしておいた残高の一部を受け手に送るというものです。多くの場合、受け手は同じコード決済アプリの利用者に限定されますが、銀行が提供するコード決済には「ことら」と呼ばれる新しい少額銀行送金のシステムを利用してさまざまな銀行への送金に対応するものも現れています。

コード決済のアプリ登録

コード決済の利用はスマホアプリの導入が前提となっています。

コード決済アプリを利用するためには、必ずコード決済運営会社のサービスへの登録が必要で、そのためにアカウント登録を行います(図4②)。アカウント登録の際には本人確認のための認証を行いますが、その際に電話番号と

図4 コード決済を利用するまでの流れ

メールアドレスなどの基本情報のみで認証して登録する場合と、マイナンバーカードや運転免許証などの公的書類の写真を送るなどして認証する場合があります。前者の基本情報のみで認証して登録した場合と、後者の公的書類を用いて認証した場合とで利用できるサービスの内容が少し異なります。

「残高方式」か「紐付方式」を設定

コード決済には、事前にチャージした残高で支払う「残高方式」と、残高ではなく利用時に事前に登録したクレジットカードや銀行口座から直接支払う「紐付方式」の2通りの支払い方法があります。

〈残高方式〉

電子マネー同様、事前に残高にチャージしてから店舗などで支払う方式です。主なチャージ方法は次のとおりです。

●現金チャージ

店舗のレジやチャージ機、ATMなどで現金を払ってチャージする方法。コード決済の種類によってチャージ可能な機械やATMなどが異なります。

●銀行口座からチャージ

インターネットバンキングの利用登録をすませた銀行口座を認証して登録します。チャージ額がそのつど銀行口座から引き落とされます。

●クレジットカード等でチャージ

クレジットカード情報(ブランドデビット、ブランドプリペイドの登録が可能な場合もある)を登録し、チャージ額をそのつどクレジットカードで支払う方法です。

その他、ポイントを残高に加えて支払うことができるコード決済もあります(PayPayのPayPayポイント等)。

〈紐付方式〉

コード決済の支払いごとに残高からではなく事前に設定しておいたクレジットカード、または銀行口座から支払う方式です。

●クレジットカード紐付け

コード決済の代金を事前にチャージした残高ではなく登録したクレジットカードで支払います。サービスによってはクレジットカードだけでなく、ブランドデビット、ブランドプリペイドも登録できることがあります。なお、この方式のサービスには「チャージ＆ペイ」といって、コード決済を利用する瞬間に利用代金をいったんクレジットカード払いで残高にチャージし、即座にその残高で支払うようになっているものもあります(PayPay、LINE Payなど)。

●銀行口座紐付け(スマホデビット)

コード決済の代金を事前にチャージした残高ではなく登録した銀行口座で支払います。この方式は、コード決済の利用時に即座に銀行口座から利用額が引き落とされます。

〈注意事項〉

コード決済には、登録可能なクレジットカードの種類を残高方式と紐付方式とで区別している場合があるので注意が必要です。例えば、PayPayは残高へのチャージには「PayPayカード」のみが対応しており、それ以外のクレジットカードは紐付方式にしか登録できません。LINE Payは残高方式にクレジットカード払いが利用できず、LINE Pay Visaカード、もしくは三井住友カードが発行するVisaブランドのクレジットカード(一部除く)のみ紐付方式に対応するなど、消費者にとって分かりにくい面もあります。